

令和4年度 下水道事業会計決算の概要

1 令和4年度の主要な取組

安全・安心なサービスを提供し続けていくため、下水道汚水事業、下水道浸水対策事業及び下水道施設老朽化対策事業などを推進しました。

○ 下水道汚水事業

西区大字清河寺地区（鴨川第12処理分区）、岩槻区大字徳力地区・大字小溝地区（岩槻第4処理分区）及び緑区大字下山口新田地区（南部第3処理分区）などにおいて、汚水整備工事を実施しました。

○ 下水道浸水対策事業

緑区太田窪1丁目地区（谷田排水区）、桜区大字下大久保地区（鴨川右岸第4排水区）、桜区大字上大久保地区（鴨川左岸第2排水区）及び岩槻区大字表慈恩寺地区（東岩槻第1排水区）などにおいて、雨水整備工事を実施しました。

○ 下水道施設老朽化対策事業

大宮区高鼻町4丁目地区・堀の内町3丁目地区（芝川第8処理分区）、南区辻4丁目地区（南部第10処理分区）、中央区本町西5丁目地区（鴨川第28処理分区）及び浦和区常盤9丁目地区（鴨川第42処理分区）などにおいて、管きょ更生工事などを実施しました。また、見沼区春岡2丁目地区において、ポンプ場再構築工事を実施しました。

2 基本業務量

項 目		令和4年度	令和3年度	増 減
行政区内人口	人	1,340,923	1,334,975	5,948
処理区域内人口	人	1,270,831	1,260,519	10,312
下水道普及率	%	94.8	94.4	0.4
水洗便所設置済人口	人	1,242,245	1,230,446	11,799
水洗化率	%	97.8	97.6	0.2
汚水処理戸数	戸	559,191	551,011	8,180
年間汚水処理水量	m ³	143,699,455	148,553,019	△ 4,853,564
年間有収水量	m ³	120,148,579	121,280,802	△ 1,132,223

3 収益的収支の状況

下水道事業収益につきましては、下水道使用料は減少したものの、他会計負担金などが増加したことから、前年度に比べて 20,954 千円増加しました。

下水道事業費用につきましては、流域下水道維持管理負担金などが減少したことから、前年度に比べて 1,264 千円減少しました。

● 収益的収支決算額（消費税込み） （単位：千円）

項目	令和4年度	令和3年度	増減
下水道事業収益	26,489,714	26,468,760	20,954
下水道事業費用	24,634,453	24,635,717	△1,264
収支差引	1,855,261	1,833,043	22,218

● 令和4年度の収益的収支内訳

収入	下水道使用料 186.3億円	他会計負担金 45.7億円	その他 32.9億円
	減価償却費・資産減耗費 136.8億円	維持管理費 86.0億円	支払利息等 23.5億円

4 資本的収支の状況

資本的収入につきましては、国庫補助金や企業債などが減少したことから、前年度に比べて 1,139,980 千円減少しました。

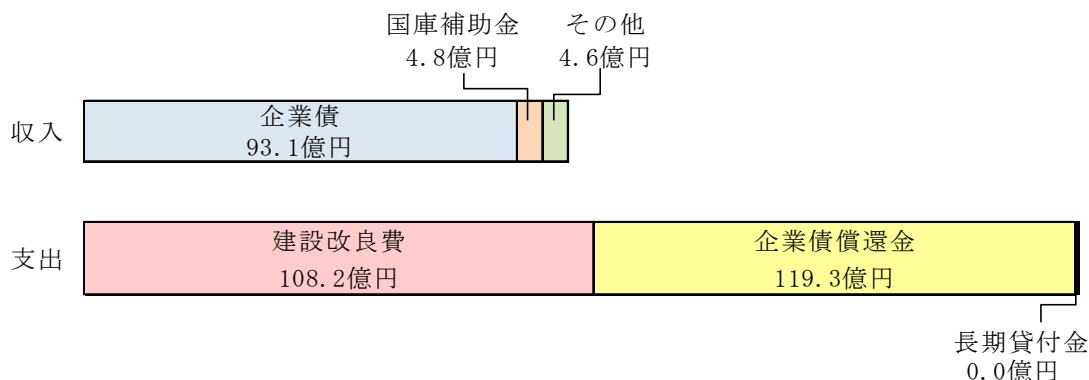
資本的支出につきましては、建設改良費などが減少したことから、前年度に比べて 482,171 千円減少しました。

● 資本的収支決算額（消費税込み） （単位：千円）

項目	令和4年度	令和3年度	増減
資本的収入	10,249,334	11,389,315	△ 1,139,980
資本的支出	22,750,855	23,233,026	△ 482,171
収支差引	△ 12,501,521	△ 11,843,711	△ 657,810

※ 収入が支出に対して不足する額は損益勘定留保資金などで補填しました。

● 令和4年度の資本的収支内訳



5 損益計算書

下水道事業収益	営業収益	下水道使用料	169.3億円	下水道事業費用	営業費用	維持管理費	78.7億円
		他会計負担金	45.7億円			減価償却費等	136.8億円
		その他営業収益	0.2億円				
	営業外収益	長期前受金戻入等	32.7億円		営業外費用	支払利息等	22.2億円
	特別利益	その他特別利益	0.0億円		当年度純利益		10.2億円

6 貸借対照表

資産	固定資産	有形固定資産	3902.7億円	負債	固定負債	企業債	1,642.3億円
		無形固定資産	143.5億円		引当金	6.7億円	
					流動負債	企業債	116.6億円
		投資その他	0.2億円		未払金	35.4億円	
	流動資産	現金預金	50.7億円	引当金・預り金	1.1億円		
		未収金	37.0億円	繰延収益	長期前受金	973.1億円	
		前払金	18.9億円	資本金	資本金	1,316.8億円	
					剰余金	資本剰余金	2.2億円
						利益剰余金	58.8億円

7 キャッシュ・フロー計算書

資金期首残高		56.2億円
資金増減額	業務活動によるキャッシュ・フロー	113.5億円
	投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 92.8億円
	財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 26.2億円
資金期末残高		50.7億円

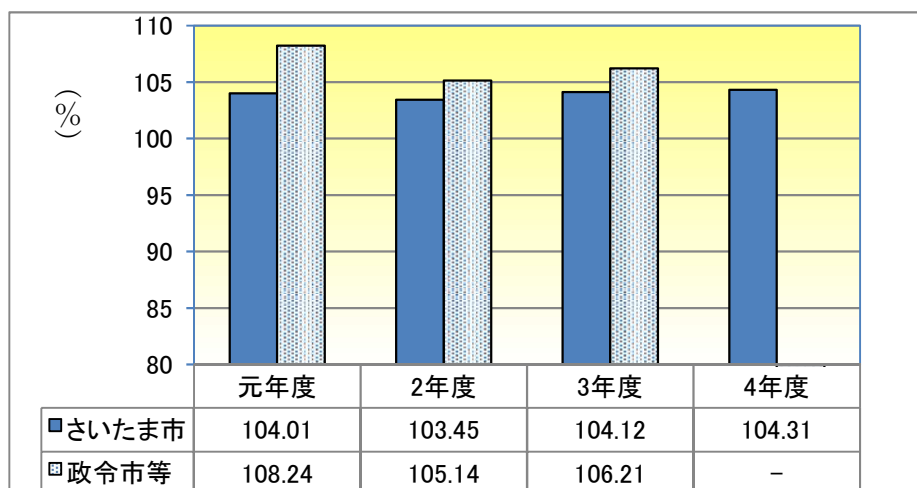
8 企業債残高

項目	令和4年度末残高	令和3年度末残高	増減
企業債	1,758.9億円	1,785.1億円	△ 26.2億円

9 経営指標に関する事項

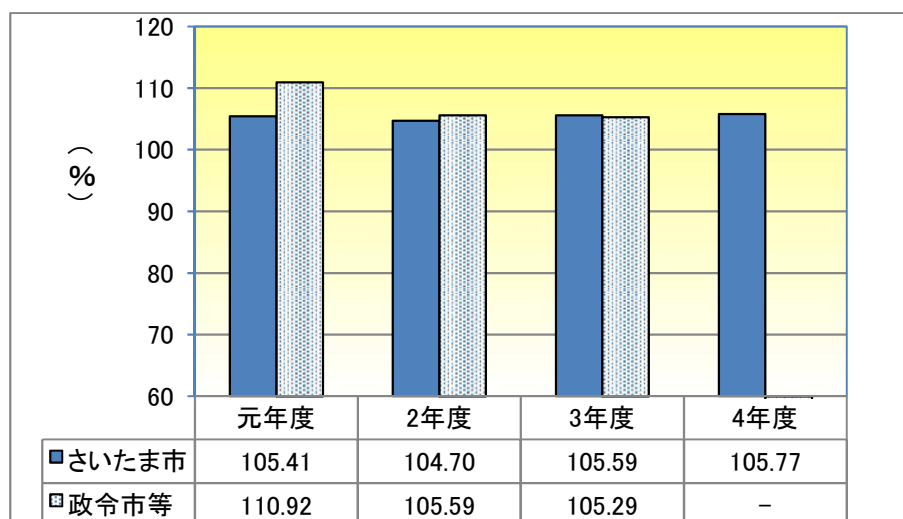
○ 経常収支比率

経常収支比率とは、下水道使用料や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標です。他の政令指定都市等の平均を下回っていますが、経常収益で経常費用を賄うことができます。



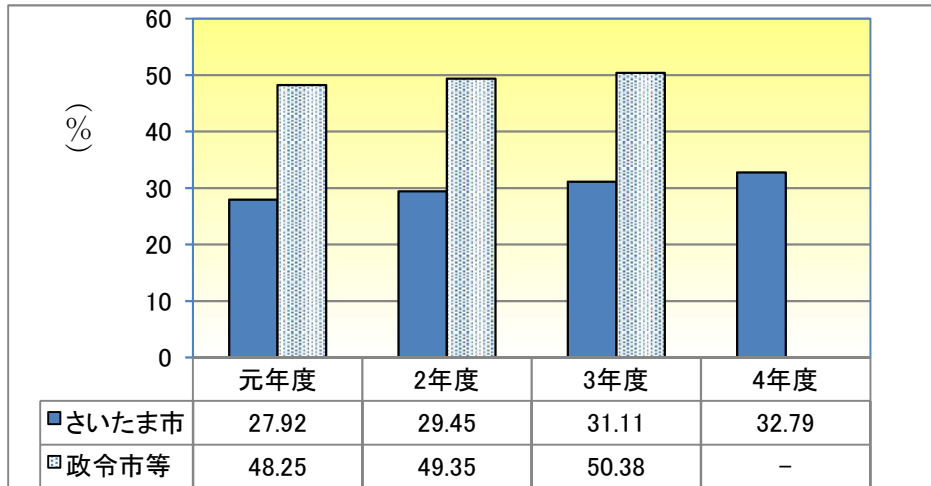
○ 経費回収率

経費回収率とは、汚水処理に要した費用を、下水道使用料でどの程度回収できたかを示す指標です。下水道の経営は、経費の負担区分を踏まえて、汚水処理費を全て下水道使用料により賄うことが原則であり、経費回収率は下水道事業の経営を最も端的に表しています。



○ 有形固定資産減価償却率

有形固定資産減価償却率とは、有形固定資産のうち、償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標です。他の政令指定都市等の平均を下回っており、これは、本市下水道管路施設の整備が昭和40年代後半から増加したことにより、比較的新しい施設が多いことが理由として考えられます。



○ 管きょ老朽化率

管きょ老朽化率とは、法定耐用年数を超えた管きょ延長の割合を表した指標です。今後、法定耐用年数を超えた施設が増加し更新需要のピークを迎えることから、下水道施設の状態および財源を把握したうえで、引き続き計画的な改築を進めてまいります。

